



久地さくらまつり

住民のみなさんの思いがこめられた久地さくらまつりです。保存したいという石田議員は挨拶で、高津区市議会議員懇談会が昨年11月に、「かすみ提の保存」を盛り込んだ予算要望書を市長に提出、本年2月に回答があった内容を紹介しました。

このまちとともに

今年も、かすみ堤の「久地さくらまつり」が行なわれ、地元のみなさん手づくりのじゃがバター、おにぎり、焼きとり等に行列がでける等大変賑わいました。「かすみ堤を保存する会」の代表の方から久地小の3年生が「地元の歴史を学ぶ」目的で2月にかすみ堤をおとすれ、「かすみ堤のすこいところ」が分かってめっちゃよかった」などの感想が紹介され「子どもたちの為にも是非、保存させていきたい」と挨拶されました。かすみ堤は住民のコミュニティーの場、自然と歴史の散策の場、災害時の一時避難所にもなる地域の大切な宝です。保存したいという

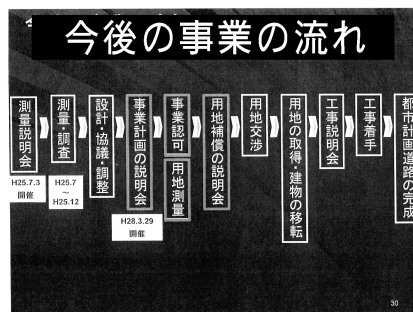
久地さくらまつりに参加しました (4/3)

「かすみ堤の保存」予算要望(高津区市議会議員懇談会)への市の回答

「建設緑成局の回答」・「かすみ堤の保全については全市のな見地から高津区役所が関係局と連携し、国土交通省との協議を進めておりますので、その内容を踏まえながら対応してまいります」
「高津区役所の回答」・「かすみ堤周辺の多摩川や多摩川崖線の緑地、

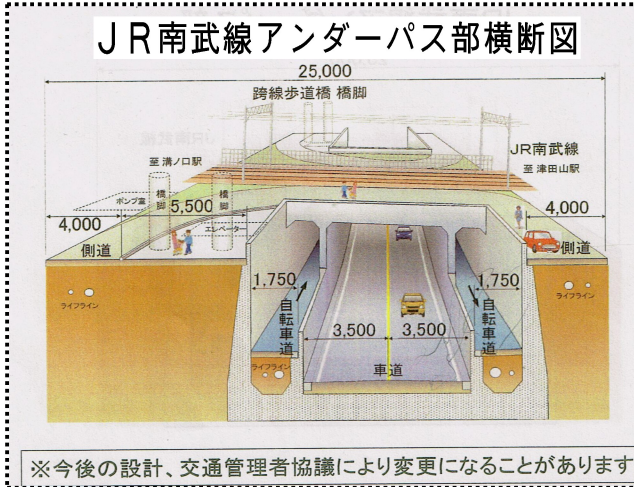
日本共産党市議員の所属委員会 (2016年度)

委員会名	管轄局	議員名
総務委員会	総務企画局、財政局、経済労働局、臨海部国際戦略本部	佐野仁昭
		大庭裕子
		宗田裕之
文教委員会	市民文化局、こども未来局、教育委員会	石田和子
		片柳 進
健康福祉委員会	健康福祉局 病院局、消防局	市古映美 渡辺 学
まちづくり委員会	まちづくり局 建設緑政局	石川建二 勝又光江
環境委員会	環境局、港湾局、上下水道局、交通局	斉藤隆司
		井口真美



都市計画道路溝ノ口線(大山街道)の事業計画に関する説明会に参加しました 3/29

危険な大山街道踏切や踏切による交通渋滞等の対策を検討している市建設緑政局は、踏切の除却にあわせ、道路の拡幅とともに、JR南武線をアンダーパスで立体交差化する道路計画の概要がまとまったとして、整備の内容や今後の事業の進め方等の説明会を開催。自動車、自転車、歩行者の通行を明確に分離し、歩行者は測道に設置する南武線をまたぐ跨線歩道橋及びエレベータを利用すること等が説明されました。



スケジュール、事業に要する財政見込み、冠水、排水対策について等、質問や意見・要望がだされました。

末長地内の第3京浜道路に至る道路が舗装されました

一昨年度、道路の段差や車両通行時の振動音の解消のため道路舗装をという要望書提出に同行させていただいた末長地内の道路が3月末舗装されました。

前号(3,4月号)の訂正とお詫び

- ① 田園都市線溝の口駅ホームドアの設置予定は、正しくは2017年度です。
- ② 誤字の訂正 ・「末永小学校」ではなく「末長小学校」です。・「南部沿線道路」ではなく「南武沿線道路」です。以上、訂正しお詫びいたします。

久地口筒分水をつなぐ空間として、これまで保全活用に向けた調査を実施するとともに、活用方法や財源確保等の課題について庁内検討会議において全庁的に検討を進めて参りました。

今後の取扱については、地域の要望や議会での審議状況を踏まえて借用を含めた手法も視野に入れ、関係者と連携しながら、引続き地権者である国との協議を進めて参ります。なお、国の会計制度の変更に伴い国の協議先も変わる予定である為、引続き協議を進められるよう調整を図ってまいります」



福祉の充実へ、新年度 予算で前進しました

◆児童相談所に社会福祉職 が増員

市内3カ所の児童相談所への児童虐待・通告件数は、2014年度1792件で過去最高、内容も複雑多様化しています。一方、児童相談所の地区担当ケースワーカー1人の担当児童は2012年度82人、14年度99人、15年度118人と増え続けていることから、石田議員は繰り返し専門職種の増員を求めてきましたが2016年度予算で増員されることになりました。

○こども家庭センターに社会福祉職：3名増員

○中部児童相談所に社会福祉職：1名増員

○北部児童相談所に社会福祉職：1名、心理職：1名増員

◆「DV被害に関わる総合相談窓口」が5月に設置

配偶者暴力被害の相談は増加傾向にあり、「DV防止法」の改正で、市町村は「DV相談支援センター」の設置に努めるとされ、横浜市、相模原市は既に設置し、横浜市では月曜から金曜まで9時半から20時まで開設していますが、川崎市は未設置でした。石田議員は夜間、休日含むDV相談支援センターの設置をこの間求めてきました。

○新年度789万円の予算が計上され、総合相談窓口が開設されましたが、非常勤の相談員2名体制で受付は16時半まで。

石田議員は夜間の開設も求めました。【配偶者暴力被害の総合相談窓口】044-200-0845

◆地域包括支援センターに 1名増員

地域の高齢者とその家族の身近な相談窓口として、介護予防の支援や地域のネットワークづくり等の機能を果たす「地域包



括支援センター」は全市49カ所、社会福祉士、主任介護支援専門員、保健師等が配置されています。高齢者人口の増加と担う役割が増えていることから人員増をこの間求めてきました。3月議会の代表質問では、特に新年度から要支援1・2の人への総合事業が始まると共に、地域包括ケアシステムにおける区役所の地域見守り支援センターや関係機関とのネットワークの強化等、になう業務が明らかに増大するも、専門職の増員を強く求めました。

○新年度、非常勤の社会福祉職等が1名ずつ増員される予算がつけました。

◆介護事業所に「必要、適切な助言指導」が出来る指導監査体制の充実・強化を

昨年12月議会で、石田議員は、2186カ所ある介護事業所への川崎市の指導監査のありかたについて、「厚労省の指導・監査の指針は、必要適切な助言指導に努めることが重要」と述べているが、その体制がとれていないと実態を指摘し、監査担当の人員増と体制の充実・強化を求めました。

○新年度、新たに担当課長を配置、係員1名、非常勤2名を増員し、実地指導件数を増やす。集団指導講習会を従前の年2回から3回へ、介護保険の改定年度の直前にもう1回行なうとし、業種別、訪問系、入所系の施設別に行うことも検討する。1回あたりの時間を増やすなど参加率と内容をよくしたいとの報告が健康福祉委員会にありました。

精神科救急医療の充実へ

精神障がいのある方が精神科以外の疾患で救急車を呼ぶ「他科救急」で受入れを断られるケースが多い問題で、この間、日本共産党や石田議員は家族やグループホームの支援員さんの要望を繰返し質問し、解決策を要求してきました。

○3月議会で、健康福祉局長は、消防局や救急医療機関と連携した実態調査を実施し、次期の地域医療計画に反映させると答弁しました。この答弁は初めてで

す。引き続き取り組んでいきます。

ヘイトスピーチ根絶へ 決議（3月議会）

川崎でも在日韓国・朝鮮人の方々等、外国人を口汚くののしる民族差別集会等が行われています。市として実態調査等、ヘイトスピーチを根絶するための取組と人権を尊重し、あらゆる差別撤廃に向けたまちづくりの推進を求めた市議会の決議が可決しました。

福島県原発被災地を 視察しました（4/12～13）

震災と原発事故から5年、相馬市と「避難指示解除準備区域」「居住制限区域」である南相馬市小高区、浪江町を視察しました。福島県は仮設住宅、借り上げ住宅等の避難先の無償提供を来年の3月で打ち切るとのこと。南相馬市では仮設住宅に2066世帯残っている。復興住宅は地震・津波被災者向けは350戸目標に対し265戸完成しているが、原発避難者向けは目標927戸にたいし完成はゼロ。住宅を確保できないまま仮設住宅を追い出される事態になりかねないと危惧されています。

日中は戻れても夜間は泊まれません。津波の爪痕がそのまま点在しています。

政府と東電は避難解除とともに賠償打ち切りへと動いていきます。しかし帰還できない実態がよくわかります。アンケートでも6割が戻らないと答えているとのこと。原発事故は過酷であることを再認識。まだまだくらしと生業の復興が見えない実態がありました。小高区の仮設小学校は30キロ離れた鹿島区の中学校の校庭に。そこで東高津小学校6年生から贈られた千羽鶴が飾られていました。ずっと過酷な実態を見聞きしてきたので、ホッと、胸があつくなりました。



4月12日、南相馬市浪江駅前にて



東高津小学校の6年生（当時）から贈られた千羽鶴



5年前壊れたままの姿を残す建屋